

## 報 告

# わが国における小児がん患児の家族への 支援に関する文献的考察 ～近年10年間の文献分析から～

下 山 京 子

## 〔論文要旨〕

小児がん患児の家族支援に関するわが国における研究動向を明らかにすることを目的に、Web版医学中央雑誌より検索された、近年10年間の掲載論文を整理分析した。62件の論文分析の結果、研究内容は、【治療や闘病の中で生じる問題に対する、家族の不安や思い】、【ターミナル期にある家族の思いや支援】、【がんの発症による家族関係の変化とソーシャルサポート】、【初期治療期の患児、家族に対する身体的、精神的、教育的支援】、【がん告知に対する親の苦悩と支援】の5つのカテゴリーが抽出された。小児がん患児の家族支援に関する研究の概観から、長期的な経過を経て思春期・青年期に達した小児がん経験者の増加に応じた支援や、母親のみならず家族全体をとらえた家族支援の必要性が示唆された。

Key words：小児がん、家族支援

## I. はじめに

2006年に採択されたエリーチェ宣言では、「小児がんの治癒およびそのケアには長時間を要するが、目標は小児がんになった子どもが立ち直り、十分に機能を回復し望ましいQOLのもと、自立した一人の成人として同世代の人々と同じように社会に受け入れられるようになることである」と提言されている。現在では、高度医療の発展により小児がん患児の7割以上が治癒可能となり、長期生存できるようになってきている<sup>1)</sup>。別所は小児がんをめぐる諸問題を指摘し、社会の中でこれからの長い生活を充実して過ごすことができるための社会的環境の整備が喫緊の課題であると述べている<sup>2)</sup>。また、菊田も命を助ける医療から命が助かりがンを克服した小児がん経験者への継続的な医療が必要になってきていると指摘している<sup>3)</sup>。

小児がん患児の家族は、目まぐるしく変化する状況の中で長期入院に付き添う場合が多く、患児の入院により家族形態・機能の変化も余儀なくされる。そして、退院した後でも患児の家族は、再発の可能性や放射線治療、化学療法による晩期障害、二次がん出現の可能性の事実を受け止めながら、子どもの成長を見守り支え続けている。また、家族は、小児がん患児の就園、就学、就職、結婚、出産と次々に起こる課題を患児にとって一番の幸せは何かを常に考えながら生活している。患児の成長と共に歩み続け、常に問題を抱え継続的なストレスを持ち続けている小児がん患児の家族に対する長期的な看護師の家族支援は重要であり、これらの支援は、直接小児がん経験者のQOLにも関わるとの報告もあり<sup>4)</sup>、早急な検討が必要であると考ええる。

そこで本研究では、わが国における小児がん患児の家族支援に関する研究動向を把握し、その現状と課題

Study of Medical Care Supports of Families with Children Suffering from Childhood Cancer in JAPAN  
～ Literature Review for the Past 10 Years ～

Kyouko SHIMOYAMA

上武大学看護学部小児看護学（研究職/看護師）

別刷請求先：下山京子 上武大学看護学部小児看護学 〒370-1393 群馬県高崎市新町270-1

Tel：0274-20-2115 Fax：0274-42-5204

〔2214〕

受付 10. 2. 26

採用 10.10.18

を明らかにし、看護者に求められる家族支援のあり方を検討したい。

II. 研究目的

わが国における小児がん患児の家族支援に関する研究動向を概観し、その現状と課題を明らかにする。さらに、患者と家族を取り巻く今日の医療、福祉、教育の現状も踏まえて、看護者が担う家族支援のあり方を検討する。

III. 研究方法

1. 対象

過去10年間（1998年～2008年）に発表されたわが国の小児がん患児の家族支援に関する文献を、Web版医学中央雑誌（Ver.4）を用いて、「小児がん」、「家族支援」をキーワードに検索した。このうち、小児がん患児の家族支援に関する原著論文62件をレビューの対象とした。

2. 分析方法

対象とした文献を、年次別、職域別、方法別、内容別等に分類し分析を行った。研究内容以外の項目については記述統計値を表した。研究内容に関しては、Berelson B<sup>5)</sup>の内容分析の手法を参考に各論文を精読しその研究内容を忠実に要約しコードとした。そして、意味内容の類似性に基づき分類・命名しカテゴリー化した。対象文献62件より得られた研究内容コードは、62コードであり、1論文1コードのコード名をつけた。

IV. 結果および概観

1. 家族支援に関する文献対象数と発表年次別推移(図1)

1998年1月から2008年5月までの10年間に、わが国において発表された家族支援に関する対象文献は62件

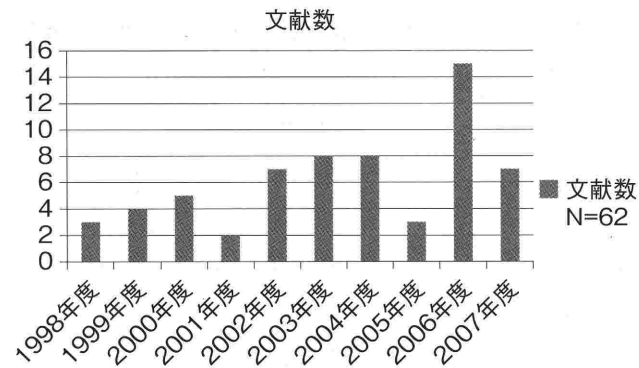


図1 文献数の年次推移

であった。年次別の文献数の推移は図1に示す。1998年から2005年までの間は、2件から8件までの件数であったが、2006年は15件と急激に増加したものの、2007年には7件と減少した。

2. 研究方法に関する概観

研究の種類は、質的研究45件（72.6%）、量的研究10件（16.1%）、質量併用7件（11.3%）であった（表1）。また、データ収集では、面接法が最も多く28件（38.4%）で、そのうち8割近くが半構成的面接法であった。次いで、質問紙法19件（26.0%）であった（表2）。分析方法では、事例研究が最も多く、26件（31.9%）であった。調査対象は、母親31件（50.0%）、父親2件（3.2%）、両親23件（37.1%）、家族（同胞を含む）2件（3.2%）、患児と母、または両親3件（4.8%）、母と看護師1件（1.6%）であった（表3）。調査の時期は、入院中が38件（61.3%）で、そのうち治療期が31件（50.0%）、ターミナル期が7件（11.3%）を占めていた。小児がん患児のがんの種類は、不特定25件

表1 研究の種類 n = 62

| カテゴリー | 数  | %    |
|-------|----|------|
| 質的研究  | 45 | 72.6 |
| 量的研究  | 10 | 16.1 |
| 質量併用  | 7  | 11.3 |

表2 データ収集 重複集計 n = 73

| カテゴリー     | 数  | %    |
|-----------|----|------|
| 面接法       | 28 | 38.4 |
| 観察法       | 15 | 20.5 |
| 自作質問紙法    | 12 | 16.4 |
| 診療録・看護記録調 | 9  | 12.3 |
| 質問紙法      | 7  | 9.6  |
| その他       | 2  | 2.8  |

表3 調査対象 n = 62

| カテゴリー     | 数  | %    |
|-----------|----|------|
| 母         | 31 | 50.0 |
| 両親        | 23 | 37.1 |
| 患児と母・両親   | 3  | 4.8  |
| 父         | 2  | 3.2  |
| 家族（同胞を含む） | 2  | 3.2  |
| 母と看護師     | 1  | 1.6  |

(40.3%), 白血病11件 (17.7%), 脳腫瘍 5 件 (8.1%), 骨肉腫 3 件 (4.8%), 網膜芽細胞腫 3 件 (4.8%), 悪性リンパ腫 3 件 (4.8%), 神経芽腫 2 件 (3.2%) を占めていた。不特定の中には、複数のがん種が含まれていた (表 4)。発達段階では、乳児期 4 件 (6.5%), 幼児期13件 (21.0%), 学童期22件 (35.5%), 思春期 4 件 (6.5%), 青年期 3 件 (4.8%), 記載なし16件 (25.7%) であった (表 5)。

3. 研究内容に関する概観 (表 6)

62件の文献から、研究内容を類似性に基づき分類・命名しカテゴリー化した結果、【治療や闘病の中で生じる問題に対する、家族の不安や思い】、【ターミナル期にある家族の思いや支援】、【がんの発症による家族関係の変化とソーシャルサポート】、【初期治療期の患児、家族に対する身体的、精神的、教育的支援】、【がん告知に対する親の苦悩と支援】の 5 つのカテゴリー、14のサブカテゴリーが抽出された。

以下、カテゴリー別にその概要を述べる。【 】はカテゴリー、「 」はサブカテゴリー、[ ] はコードを表す。

表 4 小児がんの種類 n =62

| カテゴリー    | 数  | %    |
|----------|----|------|
| 白血病      | 11 | 17.7 |
| 脳腫瘍      | 5  | 8.1  |
| 骨肉腫      | 3  | 4.8  |
| 網膜芽細胞腫   | 3  | 4.8  |
| 悪性リンパ腫   | 3  | 4.8  |
| 神経芽腫     | 2  | 3.2  |
| 不特定多種のがん | 25 | 40.3 |
| 記述なし     | 10 | 16.3 |

表 5 患児の成長発達段階 n =62

| カテゴリー | 数  | %    |
|-------|----|------|
| 乳児    | 4  | 6.5  |
| 幼児    | 13 | 21.0 |
| 学童    | 22 | 35.5 |
| 思春期   | 4  | 6.5  |
| 青年期   | 3  | 4.8  |
| 記述なし  | 16 | 25.7 |

1) 【治療や闘病の中で生じる問題に対する、家族の不安や思い】

このカテゴリーは 4 つのサブカテゴリーで構成され、24コード、コード全体の38.7%を占めていた。4 サブカテゴリーは、「家族が望む医療支援に対する思い」、「入院治療中の親の不安や思い」、「小児がん患児の家族の入院中の闘病で生じるストレスコーピング」、「初期治療期以降も続く経過の中で生じる母親の不安や思い」であった。これらは、[青年後期の小児がん経験者の社会生活に対する母親の願いと関わり]、[小児がん患児の母親の発病期から治療期の思いの過程]、[思春期の小児がん患者の性差・発症年齢と母親への依存度との関係]などの24のコードで構成されていた。

2) 【ターミナル期にある家族の思いや支援】

このカテゴリーは、3 つのサブカテゴリーで構成され、14コード、コード全体の22.6%を占めていた。3 サブカテゴリーは、「在宅療養を選択したターミナル期にある患児を持った家族のニーズに沿った支援」、「ターミナル期の患児や家族の思いに沿った看護支援と看護師の役割」、「父親の悲嘆過程と親が望むグリーフケア」であった。これらは、[ターミナル期に在宅介護を選択した脳腫瘍患児と家族のニーズに沿った援助]、[ターミナル期の小児がんの患児の両親への援助]、[小児がんで子どもを亡くした父親の悲嘆過程]などの14のコードで構成された。

3) 【がんの発症による家族関係の変化とソーシャルサポート】

このカテゴリーは、2 つのサブカテゴリーで構成され、9 コード、コード全体の14.5%を占めていた。2 サブカテゴリーは、「子どもの入院によって生じる家族関係の変化」、「小児がん患児をもつ家族のソーシャルサポート源の現状」であった。これらは、[小児がん診断後からの長期的な家族関係の変化]、[小児がんの子どもを持つ父母が知覚する入院中のソーシャルサポート源の現状] などの 9 のコードで構成された。

4) 【初期治療期の患児、家族に対する身体的、精神的、教育的支援】

このカテゴリーは、3 つのサブカテゴリーで構成され、8 コード、コード全体の12.9%を占めていた。3 サブカテゴリーは、「初期治療期の困難な問題を抱えた患者・家族への実践的な看護介入」、「初期治療期にある患児を持つ母親の不安および看護師との関係性を促す精神的支援」、「初期治療期の教育媒体を用いた生活指導の効果」であった。これらは、[医療チームと

表 6 研究内容

n = 62

| カテゴリー【 】                                     | サブカテゴリー「 」                            | コード [ ]                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 治療や闘病の中で生じる問題に対する家族の不安や思い<br>(24コード：38.7%)   | 家族が望む医療支援に対する思い                       | 告知を受けていないがん患児を持つ母親が望む援助<br>治療期間中の家族生活において小児がん患児を持つ家族が知りたい情報<br>医療システムの変化による看護に対する満足度                                                                                                                                                                                              |
|                                              | 入院治療中の親の不安や思い                         | 小児がんと診断された子どもの両親と医師の面談内容から捉えた親の思いの把握<br>脳腫瘍患児の放射線治療終了までの母親の思い<br>小児がん患児の入院中の母親の心情<br>血液腫瘍疾患患児の退院後1か月以内の母親の適応プロセス<br>小児がん患児の合併症併発時の母親の思い<br>神経芽腫の子どもを持つ両親の不安感の特徴<br>網膜芽細胞腫で眼球摘出を受けた患児の両親の心理プロセス<br>小児がん患児の母親の発病期から治療期の思いの過程<br>白血病と診断された母親の不安への援助                                  |
|                                              | 小児がん患児の家族の入院中の闘病で生じるストレス<br>コーピング     | 小児がんの両親と他の小児疾患の両親の罹患時に感じたストレス内容の比較<br>入院中の小児がん患児を持つ父母のコーピング・ストレス耐性度の相違<br>入院中の小児がん患児の家族の疾患と入院期間に対するコーピング<br>入院中の小児がんの子どもをもつ母親のコーピングと心理的ストレス反応との関連                                                                                                                                 |
|                                              | 初期治療期以降も続く経過の中で生じる母親の不安や思い            | 青年後期の小児がん経験者の社会生活に対する母親の願いと関わり<br>造血幹細胞移植治療対象の子どもの主體的受容を促す親の方略と実践<br>白血病患者を持つ母親が疾患の長期的な経過を理解する過程<br>小児がんの子ども的小学生生活に対する母親の思い<br>思春期の小児がん患者の性差・発症年齢と母親への依存度との関係<br>小児がん患児の完解期の就園、就学に対する母親の思いと対応<br>白血病患児の外来通院中の母親の患児に対する将来の不安内容の検討<br>外来通院中の血液腫瘍疾患患児を持つ母親の疾患に対する受容                  |
| ターミナル期・死別後の家族の思いや支援<br>(14コード：22.6%)         | 在宅療養を選択したターミナル期の患児を持つ家族のニーズに沿った支援     | 小児がんのターミナル期の在宅療養における母親の体験<br>脳腫瘍患児のターミナル期を自宅で過ごすことを選択した家族の思い<br>ターミナル期に在宅介護を選択した脳腫瘍患児と家族のニーズに沿った援助                                                                                                                                                                                |
|                                              | ターミナル期の患児や家族の思いに沿った看護支援と看護師の役割        | ターミナル期の小児がん患児に対する看護師と母親の患児に対する思いや関わりの内容<br>ターミナル期の小児がんの子どもや家族に対する看護師の役割<br>ターミナル期の神経芽腫患児のQOL向上に向けての関わり<br>悪性リンパ腫の子どもと親の思いに沿ったターミナルケアの探究<br>ターミナル期の悪性腫瘍患児の両親の兄に対する思いの変化<br>ターミナル期の小児がんの子どもを持つ両親の心理過程<br>ターミナル期の腹部腫瘍の子どもをもつ家族の希望に沿う看護<br>ターミナル期のがん患児の親の気持ち<br>ターミナル期の小児がんの患児の両親への援助 |
|                                              | 父親の悲嘆過程と親が望むグリーフケア                    | 小児がんで子どもを亡くした父親の悲嘆過程<br>脳腫瘍患者の親が患児の死を看取るうえで望むこと                                                                                                                                                                                                                                   |
| がんの発症による家族関係の変化とソーシャルサポート<br>(9コード：14.5%)    | 子どもの入院によって生じる家族関係の変化                  | 小児がん診断後からの長期的な家族関係の変化<br>小児がん患児の発症前後の父親の生活と役割意識の変化<br>患児と共に母児入院した母親からの同胞への入院理由と疾患の説明<br>入院中の母親役割の変化と家族の闘病体制維持のプロセス<br>小児がん患児の入院初期段階における母親役割の変化と家族形態の変化<br>入院中の小児がん患者に付き添う家族のQOL<br>小児がん闘病生活中に生じる母親のストレス状況と家庭崩壊に関連する危機要因                                                           |
|                                              | 小児がん患児をもつ家族のソーシャルサポート源の現状             | 長期的な闘病過程における社会的なサポートシステムの実態<br>小児がんの子どもを持つ父母が知覚する入院中のソーシャルサポート源の現状                                                                                                                                                                                                                |
| 初期治療期の患児、家族に対する身体的、精神的、教育的支援<br>(8コード：12.9%) | 初期治療期の困難な問題を抱えた患児・家族への身体的支援           | ノンコンプライアンス状態における白血病の安静維持療養中の母子への支援<br>医療チームと良い関係を築けずにいた小児がん患児と家族に対する看護介入<br>網膜芽細胞腫で眼球摘出術を受けた児と家族への関わり                                                                                                                                                                             |
|                                              | 初期治療期にある患児を持つ母親の不安および看護師との関係性を促す精神的支援 | 小児がん患者・家族を理解するための看護師の介入<br>小児がん患児の母親との会話の中での看護師の関わり<br>白血病で長期・隔離をされた患児、母親のストレス軽減への援助                                                                                                                                                                                              |
|                                              | 初期治療期の教育媒体を用いた生活指導の効果                 | 小児がん患者の母親に対する退院指導の実態とその介入による効果<br>白血病化学療法中の外泊についての外出用パンフレットを使用した生活指導の効果                                                                                                                                                                                                           |
| がん告知に対する親の苦悩と支援<br>(7コード：11.3%)              | がん告知に対する親の思い                          | 外来通院している小児がん患者への告知に対する親の意思決定<br>外来通院している小児がん患者への告知に対する親の思い<br>小児がん患児の母親の病名告知直後の医療者に対する心情<br>骨肉腫転移により予後不良と告知された両親の思い<br>骨肉腫で予後不良と告知された危機的状況にある母親との関わり                                                                                                                              |
|                                              | 子どもにがん告知をする親の思いと看護支援                  | 両親から子どもへのがん告知に対する意思決定を支えるパンフレット指導の効果<br>白血病の子どもへの病名告知を決意した母親の思い                                                                                                                                                                                                                   |

良い関係を築けずにいた小児がん患児と家族に対しての看護介入], [小児がん患者・家族を理解するための看護師の介入], [小児がん患者の母親に対する退院指導の実態とその介入による効果] などの8のコードで構成された。

#### 5) 【がん告知に対する親の苦悩と支援】

このカテゴリーは、2つのサブカテゴリーで構成され、7コード、コード全体の11.3%を占めていた。2サブカテゴリーは、「がんの告知に対する親の思い」、「子どもにがん告知をする親の思いと看護支援」であった。これらは、[外来通院している小児がん患者への告知に対する親の意思決定], [白血病の子どもへの病名告知を決意した母親の思い] などの7のコードで構成されていた。

### V. 考 察

小児がん患児の家族支援に関する62件の研究論文の俯瞰から、見えてきた現状と課題について検討していきたい。

#### 1. 小児がん治療の進歩と長期的な家族支援

小児がんは現在多くの患者が治癒しており、成人期の小児がん経験者は5万人とも言われ、慢性的な経過をたどる小児がん経験者が増加している時代になってきている<sup>6)</sup>。今回の先行研究の概観からは、家族支援に関する研究の対象患者年齢は、幼児期から学童期が最も多く、両方で全体の6割近くを占め、思春期や青年期においての研究は全体の1割程であった。限られた思春期以降の文献データではあるが、現在、小児がん経験者の晩期障害や二次がんの発症のリスクの高さが指摘されていることを考えると<sup>7)</sup>、それに伴い小児がん経験者、および家族の長期的に抱える問題が大いに想定され、看護者にその対応が求められる。

今回の文献検討においても、[白血病患者を持つ母親が疾患の長期的な経過を理解する過程], [思春期の小児がん患者の性差・発症年齢と母親への依存度との関係], [白血病患児の外来通院中の母親の患児に対する将来の不安内容の検討] など、これらは全体の中に占める割合は少数ではあるものの「初期治療期以降も続く経過の中で生じる母親の不安や思い」に関する8コードが示された。初期治療期以降も持続する経過の中で生じる母親の不安や思いの中で顕在化する家族の問題は、今後も小児がん経験者が増加しそれに伴い諸

問題が多様・複雑化していくことを考えると、より増加することが懸念される。これらを解決するためには、現在の長期化する家族の問題を早急に把握し、実態を明らかにしていくことが喫緊の課題である。

また、小児がんは、低年齢に発症する事例が多く、外来でのフォローアップもその施設で異なり、患者がフォローアップ終了後どのような経過をたどるのが不明な場合が多い。患者の長期的な把握がしにくく、一度医療機関から離れた患者の継続的な実態把握は非常に難しいため、長期的な家族支援をさらに困難にさせている。

近年、小児白血病長期フォローアップ委員会で小児がん登録が検討されているが、このシステムの構築により、長期フォローアップがされていない患者に対して追跡が可能となることが期待される<sup>8)</sup>。そして、その患者・家族より、現状での家族支援に関する問題を系統的に提示し、長期フォローアップに対する小児がん患者の家族の思いや苦悩を明らかにし、検討を重ねていくことが急務である。その結果、小児がん経験者のQOLの向上に繋がっていくと考えられ、長期的な小児がん経験者への家族支援の確立にも繋がっていくと考える。

#### 2. 家族全体を支える家族支援の視点

本研究では、母親を対象とした研究が5割を占め圧倒的に多かった。これは、母親が付添い者になることが多く、看護師が母親の苦悩や思いを捉えやすいためだと考える。今回の対象文献の中に、2事例の父親に関する研究が含まれており、数少ない文献データではあるものの、今後、父親に対しての看護支援の必要性が示唆された。父親とは、面会時の関わりや、母親の会話の中から捉える傾向があり、父親との時間的な接点の少なさから、父親の問題を捉えにくい状況であると考えられる。父親の苦悩は、医療者から直接目に見えない家庭や職場で起こっている場合があり、父親に対しての看護介入の必要性を感じる。父親は、母親と医療者の中で、孤立しやすい立場であるという研究結果もあり<sup>9)</sup>、看護者は父親への配慮や支援の充実を図らなければならない。また、父親は会社の同僚から精神的なサポートを受けているとの報告もあり<sup>10)</sup>、父親のライフスタイルに応じたソーシャルサポートの検討も必要である。

さらに、両親だけではなく同胞との関わりも問題と

して取り上げられていた。小児科では感染のリスクが高いため、患児との面会制限を強いられていることが多いが、患児や同胞の思いを大切にし、ケースに応じてある程度の規制緩和も必要と考える。また同胞は、付添いのため母親が不在となり、乳児期の子どもは祖母に預けられたり、幼児期の子どもは、叔母に養育されたりと、家族関係の変化に影響を受けているとの指摘もある<sup>11, 12)</sup>。

以上のことから、小児がんの発症は、家族関係を変えるほどの大きな問題発生要因であり、それにより継続的に家族それぞれが影響を受けていた。もはや、母親だけを中心とした看護介入ではなく、家族という一つの集合体として対象を捉え看護介入していかなければならない段階にきている。さらに、小児がん患児の家族を支援する看護者は、一場面だけの断片的な家族支援の看護介入に留まらず、長期的な経過をたどる患児や家族の将来的な展望を視野に入れた包括的、継続的な看護介入が必要である。

## VI. おわりに

近年10年間の小児がん患児の家族支援に関する62件の文献を俯瞰した結果、その研究方法は事例研究における実態把握が多く、効果的な看護介入の確立までには至っていなかった。しかし、事例研究はひとつひとつのケースから家族のより身近な問題を捉えており、その研究の蓄積は非常に貴重である。事例研究がケース報告に留まることなく、これらの実証的な蓄積をもとに効果的な家族支援の方法を具体的に検討することにより、よりよい家族支援の手立てになると考える。

今後は、長期的な経過をたどる小児がん患児や家族

の将来的な展望を視野に入れた、継続的な家族支援の方法について、さらに実証的に検討を重ねたい。

## 文 献

- 1) 秦 順一. 成育医療 妊娠・出産から子どもの成長を見守る. 悠飛社, 2007: 68-76.
- 2) 別所文雄. 小児がん治療の進歩と課題～長期生存患者の健康問題を中心に～. 小児保健研究 2009; 68 (6): 607-613.
- 3) 菊田 敦. 固形腫瘍患児のキャリアオーバー. 小児看護 2005; 28 (9): 1136-1141.
- 4) 古谷佳由理. 小児がんでキャリアオーバーした人の生育看護. 小児看護 2005; 28 (9): 1259-1262.
- 5) Berelson B. 稲葉三千男, 金 圭煥, 訳. 社会心理学講座Ⅶ 内容分析. みすず書房, 1957: 1-57.
- 6) 七野浩之. 進行神経芽腫の TBI 併用大量化学療法. 小児外科 2008; 40 (6): 653-663.
- 7) 細谷亮太, 真部 敦. 小児がん. 中公新書, 2008; 96: 195-205.
- 8) 麦島秀雄. 小児がん治療の晩期障害. 小児外科 2008; 40 (6): 607-608.
- 9) 橋爪永子, 杉本陽子. 小児がん患児の発症前後での父親の生活と役割意識の変化. 日本小児看護学会誌 2006; 15 (2): 46-52.
- 10) 梅田英子, 藤村まゆみ, 平林高子, 他. 小児がんの子どもを持つ父親と母親のソーシャルサポート. 日本看護学論文集: 小児看護 2006; 36: 98-100.
- 11) 大場正巳, 遠藤恵美子, 他. 新しい看護. プレイン社, 1999: 291.
- 12) 前掲書10)

資料1 文献レビューのための対象文献一覧

| No | 研究者                   | タイトル                                                   | 文献名                   | 発表年  | 号数     | ページ         |
|----|-----------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------|------|--------|-------------|
| 1  | 山田梨絵, 尾近洋子, 佐々木薫, 他   | 放射線治療を受ける子どもと家族の看護                                     | 小児看護                  | 2007 | 30巻12号 | p 1699~1706 |
| 2  | 石井佳代子                 | 小児がんを克服し青年後期を迎えた小児がん経験者の社会生活に対する母親の願いと関わり              | 日本小児看護学会誌             | 2007 | 16巻2号  | p 1~8       |
| 3  | 寺田麻子, 中川いずみ, 道端いつ子    | 小児がんの子どもの小学生生活に対する退院時指導の検討—子ども・保護者への面接を通して—            | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2007 | 37号    | p 167~169   |
| 4  | 川村明美, 佐々木理恵           | 長期入院・隔離中の母子のストレスに対する看護介入                               | 小児がん看護                | 2007 | 2巻     | p 115~121   |
| 5  | 山下早苗                  | 小児がんを診断されてから現在までの家族関係の変化                               | 小児がん看護                | 2007 | 2巻     | p 40~48     |
| 6  | 森美智子                  | 小児がん患児の親の状況と援助に関する研究 (その1) 闘病生活により発生する状況危機要因           | 小児がん看護                | 2007 | 2巻     | p 11~26     |
| 7  | 森美智子                  | 小児がん患児の親の状況と援助に関する研究 (その2) 闘病過程における状況危機と援助ニーズ          | 小児がん看護                | 2007 | 2巻     | p 27~39     |
| 8  | 西尾温文                  | 小児がんの子どもの看ている保護者の心理的サポート CHIP を用いて                     | 小児看護                  | 2006 | 29巻12号 | p 1713~1719 |
| 9  | 橘田節子, 森 愛             | 子どものターミナル期における看護と家族の思いやりや関わりに関する一経験                    | 医療技術短期大学総合看護研究施設論文集   | 2006 | 15号    | p 65~73     |
| 10 | 山下早苗, 真鍋美貴, 高野敦子      | 外来通院している小児がん患者への告知に対する親のコーピング                          | 日本小児看護学会誌             | 2006 | 15巻2号  | p 90~97     |
| 11 | 橋爪永子, 杉本陽子            | 小児がん患児の発症前後での父親の生活と役割意識の変化                             | 日本小児看護学会誌             | 2006 | 15巻2号  | p 46~52     |
| 12 | 恩田清美, 上別府圭子, 杉本陽子     | 小児がんのターミナル期の在宅療養における母親の体験<br>家庭内サブシステムの関係に焦点をあてて       | 日本小児看護学会誌             | 2006 | 15巻2号  | p 39~45     |
| 13 | 宮城島恭子, 大見サキエ          | 思春期の小児がん患者の日常生活における自己決定の患児と母親の捉え方                      | 小児がん看護                | 2006 | 1巻     | p 1~12      |
| 14 | 北山久美子, 宇都由美子, 滝下さよ子   | DPC 導入後の小児入院患者と母親の満足度の変化                               | 看護情報研究会論文集            | 2004 | 5回     | p 93~96     |
| 15 | 野村佳代, 村田恵子            | 子どものハイレスク治療の受け入れに向けた促しのための親の方略                         | 日本看護科学会誌              | 2006 | 26巻2号  | p 3~11      |
| 16 | 森美智子                  | 小児がん患児への母親の心情とケア                                       | 日本赤十字武蔵野短期大学紀要        | 2005 | 18号    | p 62~74     |
| 17 | 斎藤礼子, 伊丹朋子, 成田智恵子     | 入院した子どもが採血・点滴挿入を受ける時の母親の気持ち                            | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2006 | 36号    | p 110~112   |
| 18 | 水野みゆき, 小島生己, 前川由香     | ターミナル期にある子ども・家族に対する看護者の役割<br>家族が望むケアを提供し, 共に実施した事例を通して | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2006 | 36号    | p 83~85     |
| 19 | 佐藤寛子, 石川裕里, 塩谷晃見, 他   | ノンコンプライアンス状態における母子への継続看護 病棟看護師による実際                    | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2006 | 36号    | p 68~70     |
| 20 | 梅田英子, 藤村まゆみ, 山口佐代子, 他 | 小児がんで入院中の子どもを持つ両親の心理状態とコーピングの特徴                        | 大阪大学看護学雑誌             | 2005 | 11巻1号  | p 11~17     |
| 21 | 鏡 文江, 長谷川典子, 高橋幸子     | 患者の病名告知に不安や葛藤を抱く家族への看護<br>両親の意思決定を支えるためのパンフレットを作成して    | 新潟県立がんセンター新潟病院看護部看護研究 | 2006 | 平成17年度 | p 12~18     |
| 22 | 藤井智恵子                 | がん患児を持つ母親の退院後の在宅生活適応プロセス                               | 日本小児看護学会誌             | 2005 | 14巻2号  | p 52~57     |
| 23 | 山下早苗, 猪下 光            | 外来通院している小児がん患者への告知に対する親の意向<br>—告知に対する親の不確かさに焦点を当てて—    | 日本小児看護学会誌             | 2005 | 14巻2号  | p 7~15      |
| 24 | 田村芳子, 大久保明子, 北上智子     | 白血病の子どもへの病名告知を決意した母親の思い                                | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2005 | 35号    | p 15~17     |
| 25 | 増田菜美, 羽畑正孝, 根来佐由美, 他  | 告知を受けていないがん患児をもつ母親が望む援助                                | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2005 | 35号    | p 12~14     |
| 26 | 富澤弥生, 塩飽 仁            | 母親が子どもへの低リスク群白血病を認識する過程                                | 日本小児看護学会誌             | 2005 | 14巻1号  | p 16~23     |
| 27 | 長尾明日香, 伊藤ふみえ          | 退院後の自宅療養生活への疑問・不安に関する実態調査<br>使用にがん患児の家族を対象として          | 東京医科大学病院看護研究集録        | 2004 | 24回    | p 27~32     |
| 28 | 加藤隆子                  | 小児がんで子どもを亡くした父親の悲嘆過程に関する研究                             | 日本看護科学会誌              | 2004 | 24巻4号  | p 55~64     |
| 29 | 藤原千恵子                 | 入院中の病児家族コーピングに関する研究—疾患および入院期間による差異—                    | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2004 | 34号    | p 147~149   |
| 30 | 朝賀真理, 井内ひとみ, 小西まつ子, 他 | 小児癌患者・家族を理解するための看護介入<br>—「毎朝五分間, その患者・家族と共に時を過ごす」効果の検討 | 日本看護学会論文集: 小児看護       | 2004 | 34号    | p 95~97     |

|    |                            |                                                            |                      |      |        |             |
|----|----------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------|------|--------|-------------|
| 31 | 山部由美子                      | ターミナル期におけるQOL向上に向けての関わり                                    | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2004 | 34号    | p 9~11      |
| 32 | 藤原千恵子                      | 入院中の小児がんの子どものもつ母親のコピーングと状況要因および心理的ストレス反応との関連               | 日本看護学会誌              | 2004 | 13巻1号  | p 40~45     |
| 33 | 生駒恵美子, 中村しのぶ               | ターミナルケアの実際 子どもの思いに添い, 親の思いに添うターミナルケアとは                     | 小児看護                 | 2003 | 26巻13号 | p 1795~1798 |
| 34 | 瀬戸真由里, 泉谷 恵                | ターミナルケアの実際 家族と共に歩む小児看護におけるターミナルケアの実際                       | 小児看護                 | 2003 | 26巻13号 | p 1785~1789 |
| 35 | 上別府圭子, 亀口憲治, 深堀浩樹          | 小児がん治療中の子どもの家族ケア実践をめぐる検討                                   | 家族看護                 | 2004 | 2巻1号   | p 140~146   |
| 36 | 藤原千尋                       | がん患児と母入院した母親の同胞への説明 説明に見られたふたつの態度                          | 日本小児看護学会誌            | 2003 | 12巻1号  | p 43~49     |
| 37 | 水野貴子, 中村菜穂, 服部淳子, 他        | 小児がん患児の治療段階における母親役割の変化と家族の闘病体制維持プロセス(第2報)                  | 日本小児看護学会誌            | 2003 | 12巻1号  | p 8~15      |
| 38 | 富岡晶子                       | 乳幼児期に発症した小児がん患児の就園・就学に対する母親の認識と対応                          | 千葉看護学会誌              | 2003 | 9巻1号   | p 1~7       |
| 39 | 小林月子, 岡田美雪, 北村フミ子          | 化学療法中患児の外泊時の生活指導の一考察 外泊用パンフレットの使用から                        | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2003 | 33号    | p 163~165   |
| 40 | 小川美裕子                      | 小児がんの子どものもつ家族への看護<br>在宅ターミナルケアを葛としようしながら意志決定した事例をとおして      | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2003 | 33号    | p 94~96     |
| 41 | 北田良子, 平山和枝, 及川 泰           | 小児がんの子どものもつ家族が知りたいと思う情報—治療期間中の家庭生活において—                    | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2002 | 32号    | p 127~129   |
| 42 | 池田恭子, 長野麻咲美                | 小児がんの子どものもつ母親に対する病名告知直後の支援の検討                              | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2002 | 32号    | p 124~126   |
| 43 | 宮川実位子, 佐藤扶美代, 菊池美保子        | 予後不良の子どものもつ両親の心理状態—Finkの危機モデルを用いて面会ノートを振り返る—               | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2002 | 32号    | p 25~27     |
| 44 | 中村久美子, 黒田夕香, 加藤由美子         | 事例にみる看護の実際 感染症胃腸炎の看護 原疾患を合併している患児の母親への看護                   | 小児看護                 | 2003 | 26巻2号  | p 162~173   |
| 45 | 古川絵利子, 橋本真紀子, 濱田米紀, 他      | 事例にみる看護の実際 網膜芽腫で眼球摘出術を受けた児と家族のかかわり                         | 小児看護                 | 2002 | 25巻13号 | p 1717~1723 |
| 46 | 東樹京子                       | 小児の事例検討 母親の不安の気持ちとそその援助                                    | 小児看護                 | 2002 | 25巻8号  | p 1036~1042 |
| 47 | 竹尾みちる, 丹治友子, 前田美樹子         | ターミナル期の子どものもつ家族への援助 ~家族の意思・希望に添う看護とは~                      | 神奈川県立子ども医療センター看護研究集録 | 2002 | 26巻    | p 13~17     |
| 48 | 水野貴子, 中村菜穂, 服部淳子, 他        | 小児がん患児の入院初期段階における母親役割の変化と家族の闘病体制形成プロセス(第1報)                | 日本小児看護学会誌            | 2002 | 11巻1号  | p 23~30     |
| 49 | 中垣紀子                       | 神経芽腫の子どものもつ両親の不安感に関する研究                                    | 日本小児看護学会誌            | 2001 | 10巻2号  | p 38~45     |
| 50 | 中野栄子, 関根修一, 鈴木千穂, 他        | 脳腫瘍患者の親が子どもの死を看取る上で望むことを知るために子どもの死後3年経過した母親のインタビューを通して     | 神奈川県立子ども医療センター看護研究集録 | 2001 | 25巻    | p 29~35     |
| 51 | 伊藤亜希子, 渡邊百合, 細谷二美子, 他      | 危機的状況にある母親との関わりを通して フィンクスの危機理論を用いて                         | 神奈川県立子ども医療センター看護研究集録 | 1998 | 23巻    | p 1~4       |
| 52 | 河宮内薫, 清田美知枝, 濱崎美和, 他       | 眼球摘出術を受けた小児の両親への看護 乳幼児期に発症した網膜芽細胞腫の2事例を通して                 | 神奈川県立子ども医療センター看護研究集録 | 2000 | 24巻    | p 89~93     |
| 53 | 中村菜穂, 水野貴子, 服部淳子, 他        | 白血病患児の退院後の将来への不安に関する研究 外来通院中の患児の母親を対象として                   | 日本小児看護学会誌            | 2000 | 9巻2号   | p 39~44     |
| 54 | 戈木グレイグヒル滋子, 児玉千代子, 田中千代, 他 | 未知の世界への導入 新たに小児がんと診断された子どもの両親と医師の面談の場でのやりとり                | 日本保健医療行動科学会年報        | 1999 | 14巻    | p 109~128   |
| 55 | 白幡範子                       | 血液・腫瘍疾患患児の母親のノーマリゼーション状況に関する研究                             | 日本小児看護学会誌            | 1999 | 8巻2号   | p 38~45     |
| 56 | 東樹京子                       | がん患児のターミナル期における親の気持ちの分析                                    | 日本看護学会論文集：小児看護       | 2000 | 30号    | p 33~35     |
| 57 | 菊池千佳子, 武石明由美, 荒木佐登理, 他     | 事例における看護の実際 脳腫瘍患児と家族のターミナル期におけるニーードに添った援助—在宅介護を選んだ2例をとおして— | 小児看護                 | 2000 | 23巻4号  | p 403~411   |
| 58 | 遠藤芳子, 塩飽 仁, 寺島美紀子, 他       | 入院中の小児がん患児に付き添う家族のQOLに関する調査                                | 北日本看護学会誌             | 1999 | 2巻1号   | p 1~10      |
| 59 | 杉浦早苗                       | 母親の体験世界の意味と看護者としての私との相互関係<br>悪性リンパ腫と診断された子どもをもつ母親との関わりを通して | 神奈川県立看護教育大学学校事例研究集録  | 1999 | 22巻    | p 36~40     |
| 60 | 新山裕恵                       | がん患児を支える母親の内的過程 発病期から末期以前まで                                | 看護研究                 | 1999 | 32巻2号  | p 105~118   |
| 61 | 市村尚子, 牛島由紀子, 田上喜恵, 他       | 事例による看護の実際 子どもがターミナル期にある両親への援助 小児がんの3事例を通して                | 小児看護                 | 1998 | 21巻11号 | p 1429~1435 |
| 62 | 今村 恵                       | 白血病と診断された子どもの家族ケアの重要性 母親の不安への援助を通して                        | 神奈川県立看護大学学校事例研究集録    | 1998 | 21巻    | p 9~12      |